専門研修プログラム名	さいがた医療センター精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	さいがた医療センター	
プログラム統括責任者	院長　佐久間　寛之	

専門研修プログラムの概要	当院は創立80年を超える運営病床296床を有する新潟県上越地域の精神科主体の基幹病院である。特質すべきは平成30年8月から開始した治療抵抗性統合失調症治療の中で、クロザピン治療をした累計実患者数は令和4年度末時点で59名となっており、毎年、平均して約12名ずつ増加している。加えて、電気痙攣療法をした累計実患者数は、令和4年度末時点で53名となっており、毎年平均して約11名ずつ増加している。更に新たな専門医療として新設したアディクション診療部門においては令和元年5月よりアルコール、薬物、ギャンブル、インターネット・ゲーム各々の依存症に対応もする特殊外来も開設している。その結果、新潟県唯一の3領域すべての依存症専門医療機関及び依存症治療拠点機関に選定された。また、医療観察法病棟を持ち、多職種チームによる専門的な医療を経験することができる。一方、児童思春期症例の受診もしはしばあり、公認心理師と協議しながら発達の評価を行ったり、ゲーム依存に対するグループ療法を経験することもできる。老年期の症例については、院内に脳神経内科部門があり、脳血流シンチグラムやDATスキャンの撮像も可能であることから、認知症の多様性を実感しながら治療を経験することができる。そのため、精神科領域において幅広く経験を積むことのできるのが本施設の特徴でもある。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	専攻医は入院患者の主治医となり、指導医からのマンツーマンでの指導を受けながら、的確なアセスメントと診断、精緻な治療の過程を学習習得するとともに、精神疾患を抱える人の苦悩に真摯に向き合う精神科の基本を体得できる。各精神疾患に対して、画像診断をはじめとする医療機器による検査や心理検査を行い、薬物療法、個人精神療法、集団精神療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。当院では看護師、心理師、作業療法士、精神保健福祉士などとのチーム医療を行っている。研修の過程で全ての領域の精神疾患、治療についての知識、治療技法を身につけることが可能である。また、さいがた医療センターでは精神科も他科の専攻医と同じ医局にいることや、救急当番での全科当直を継続して行うなどから、初期研修で習得した医学知識・医療技術を一層向上させることができる。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1年目は概ね基礎固めを目標とし、2年目は主として幅を広げることを目標とする。更に、3年目は2年間の経験を踏まえて、指導医から自立して診察できるようにする。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	1年目は概ね基礎固めを目標とし、2年目は主として幅を広げることを目標とする。精神科治療カンファレンスで新患プレゼンテーション、経過報告を行う。肥前精神医療センターを中心としたNHOオンライン講義に参加する。更に、3年目は2年間の経験を踏まえて、指導医から自立して診察できるようにする。
	学問的姿勢	患者さんを漫然と診るのではなく、患者さんから発信されるメッセージを鋭敏に読み取りながら、創造する姿勢が必要である。ただし、創造とはいっても現在の標準的な医療を学習しておく必要はある。またICDやDSMを常に参照し、エビデンスに基づいた診断治療を行う姿勢を身につける。

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	基幹施設では医療安全、感染管理、医療倫理などについての講演会がそれぞれ年1回以上開催され、専攻医もそれに参加することによりコアコンピテンシー（基本的診療能力）を高める機会を設ける。新患プレゼンテーションや経過報告においては医療安全、倫理的姿勢を求められる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目は概ね基礎固めを目標とし、2年目は主として幅を広げることを目標とする。更に、3年目は2年間の経験を踏まえて、指導医から自立して診察できるようにする。
	研修施設群と研修プログラム	研修施設群としては、小諸高原病院、九州大学病院、肥前精神医療センター、榊原病院、琉球病院、久里浜医療センター、九州医療センター、国立・精神神経医療研究センター、小倉医療センター、更に賀茂精神医療センターが連携施設として加わっている。主として国立病院機構の病院を中心にではあるが、それぞれの地域ごとに特色あるプログラムとなっている。
	地域医療について	当院は新潟県上越地域の精神科主体の基幹病院である。新潟県唯一の3領域すべての依存症専門医療機関及び依存症治療拠点機関に選定されており、精神科領域における地域医療における当院の果たす役割は大きい。
専門研修の評価	専攻医の研修実績の評価の記録及び保管には研修実績管理システムを用いる。研修プログラムに登録されている専攻医の症例蓄積及び技能習得状況は、研修実績管理システムに蓄積される。	
修了判定	指導医のもとに研修ガイドラインに則って3年以上の研修を行い、専攻医と研修指導医が評価する研修項目表による評価と、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求め、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専門研修管理委員会規程に基づき、業務を行う。
	専攻医の就業環境	専攻医の就業はそれぞれの研修施設の就業規則に則って行われるが、就業環境の整備が必要なときは各施設の労務担当者が適切に行う。
	専門研修プログラムの改善	改善すべき事項がある場合は、検討する。
	専攻医の採用と修了	専攻医の採用及び修了については当該委員会にて審議を行う。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	やむをえない事情により研修の休止または中止する場合は当該委員会にて決定する。また、プログラム移動、プログラム外研修の条件についても当該委員会にて検討する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本専門医機構からの要請に応じて、サイトビジットが行われる場合は最大限の協力を行う。

専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	佐久間　寛之（さいがた医療センター精神科　院長） 村上　優　　（さいがた医療センター精神科　院長特任補佐） 山下　健　　（さいがた医療センター精神科　医長） 西沢　芳子　（さいがた医療センター精神科　医師）
Subspecialty領域との連続性	当初からサブスペシャリティ領域においてどのような専門医を取得を目指しているのかを踏まえて、連続性を持たせた研修を行う。